



## 学習のポイント

男子・女子共通の出題です。制作問題としては複雑な作業はないので、年齢相応に道具が使えるれば問題ありません。1度練習しておけば十分でしょう。この問題の難しいところは、サイコロを組み立てる前に、完成したサイコロを想像して絵を描く面を決めなければならないことです。小学校入試を受ける年頃のお子さまは空間を認識する能力はまだ未発達ですから、描いてある絵を見て、どの面が立体のどこになるのかがわからないのは当然のことです。ただし、サイコロのような正方体については別で、小学校入試では例外的にこのような課題が出ると覚えておきましょう（当校でも数年前に出題例があります）。対策としては、経験してその仕組や結果を覚えるしか方法はありません。「サイコロを～回転がした時、上になるのはどの面か」といった出題もあります。

### 【おすすめ問題集】

Jr・ウォッチャー5「回転・展開」、23「切る・貼る・塗る」

## 問題5

分野：複合（言語・常識）

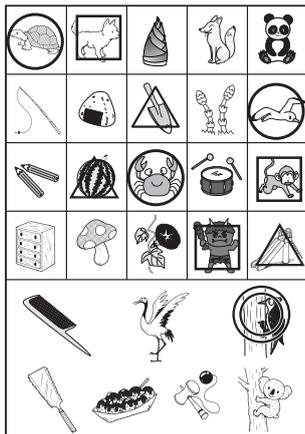
知識 語彙

〈準備〉 鉛筆

- 〈問題〉 **この問題の絵は縦にして使用してください。**
- ①上の段で言葉のはじめの音が「か」のものを選んで○をつけてください。
  - ②上の段で言葉のはじめの音が「す」のものを選んで△をつけてください。
  - ③上の段の絵の言葉のはじめの音をつなげるとできるものを下の段から選んで◎をつけてください。
  - ④すべての絵から『桃太郎』のお話に出るものを選んで□をつけてください。

〈時間〉 ①②④各30秒 ③2分

〈解答例〉 下図参照



[2020年度出題]

**問題10**

分野：推理（系列、四方からの観察、位置の移動）

観察 考え 集中

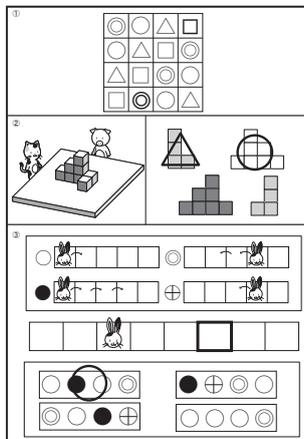
〈準備〉 鉛筆

〈問題〉 **この問題の絵は縦に使用してください。**

- ①上の段を見てください。お約束に従って形が並んでいます。空いている四角にあてはまる形を書いてください。
- ②真ん中の段を見てください。左の四角のように動物たちが積み木を見ています。右の四角の中から、ブタから見た積み木を選んで○、ネコから見た積み木を選んで△をつけてください。
- ③下の段を見てください。上の四角のお約束でウサギは動きます。1番下の四角の順番でウサギが動いた時、その上にいるウサギはどのように動くでしょうか。太い線のマス目にウサギが最後に止まるものを1番下のお約束から選んで○をつけてください。

〈時間〉 ①② 1分 ③ 3分

〈解答〉 下図参照



[2020年度出題]

**学習のポイント**

①は系列の問題ですが、単純な直線の系列ではなく四角のマス目の系列です。しかも、見つけるお約束は「縦列、横列で○△□◎が1つずつある」です。並び順ではないので指で記号を押さえるといったハウツーは通用しません。難問ですが、正面から考えるべき問題でしょう。②は四方観察の問題です。こちらはよく見かける問題ですが、それぞれの動物からどのように見えるかをイメージできる程度には、積み木を扱っておきましょう。遊びの延長で構わないので、とにかく積み木に触れておいた方が、類題を解くよりもイメージは湧きやすくなります。③は位置移動の問題です。この問題が難しいのは、ウサギが動くルールが複雑なこと、問題の意味がわかりにくいことです。簡単に言えば、「ウサギが太線の四角に止まるパターンの位置移動を選ぶ」という問題なのですが、一度聞いただけはなかなかわからないかもしれません。また、「置き換え」もこの問題を難しくしている原因の1つです。例えば、「○」は「ウサギが右へ1マス動くこと」に置き換えられるのですが、この2つを結びつけるのがお子さまには難しいのです。慣れるまでは保護者の方がヒントを出すなどの工夫をしてください。

**【おすすめ問題集】**

Jr・ウォッチャー 1 「点・線図形」、3 「パズル」、6 「系列」、  
14 「数える」

**問題12**

分野：図形（合成）

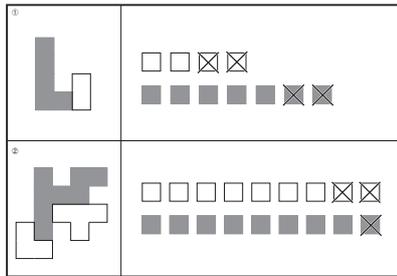
考え 観察

〈準備〉 サインペン（青色）

〈問題〉 左側の形を作るのにいらぬものが右側の四角の中にあります。いらぬものに×をつけてください。

〈時間〉 各1分

〈解答例〉 下図参照 ※×をしたピースの数が同じなら、正解としてください。



[2020年度出題]

**学習のポイント**

図形の合成の問題ですが、ピースはすべて同じ正方形という問題です。でき上がった形に分割する補助線があれば、すぐに答えがわかってしまうでしょう。例えば、①なら白い長方形を横に半分にすれば、正方形2つを使ったパズルだと考えるまでもなくわかります。つまり、このパズルは図形の組み合わせではなく、正方形をいくつ使った形なのかを考えるものなのです。パズルの基本であると同時に、盲点になっている問題とも言えるでしょう。タネがわかれば答えるのは簡単ですが、その種を見つけるには日頃の学習が必要です。繰り返しになりますが、解き方を覚える学習ではなく、解き方を考える学習を行うこと、保護者の方は答えではなく、方向性をヒントとして与えるような学習を心がけてください。

**【おすすめ問題集】**

Jr・ウォッチャー3「パズル」、9「合成」、45「図形分割」、  
54「図形の構成」